

内容サンプル

## (2). 注目される脳科学関連の情報、考え方

ここでは、まず、マクロ的見方として、最先端の研究者、哲学者、芸術家たちの考え方、発見等を整理してお伝えしたいと思います。私が注目しているのは、以下の点です。

- **"Imagination is more important than knowledge."**  
空想は知識よりも重要である。
- 「感動から作品が生まれる。まず感動があり、その感動から作品が生まれてきます。つまり、先に結論があるのです。」(平山郁夫、画家)
- 人間の脳は、感動することで活性化されていきます。そういう意味からすれば、感動なき人生は、生きていないのも同然。人生の中にたくさんの感動があるからこそ、それは豊かなものになっていくのです。では客観的に考えて、その感動はどこから生まれるのか。**感動の素はどこにあるのでしょうか。**その一つは意外性にあります。人は不意打ちされた時に、感情が高ぶるという傾向があるのです。たとえば映画のストーリーの中で、とても憎々しい人が出てくる。意地の悪いことばかりをして、みんなに嫌われている。観客の心にも、**「何てイヤな奴なんだろう」**という気持ちが共通して芽生えてくる。しかし映画の最後のほうになって、この憎々しい奴がふとした優しさを見せる。その瞬間に観客は感動するのです。最初から優しさにあふれた人物が優しいことをしても、おそらく大して感動はしません。それが当たり前のことだと分かっているからです。でも、イヤだと思っていた人物が優しさを出すと、不意打ちを食らったように感動してしまう。そこに意外性があるからです。(茂木健一郎、脳科学者)

※以下、感動ということを経営の製品サービスと顧客との関係でとらえてみましょう。

#### (4).感動ビジネス

① ここでの感動ビジネスとは、ビジネスでつながるもの同士が、感動という言葉、感動のイメージでつながりあっていることを意味する。たとえば、商品のプレゼンテーションをするときでも、相手が感動しているシーンを思い浮かべながら、プレゼンテーションする。モノづくりでも、顧客が感動しているシーンを思い浮かべながら、モノづくりをする、という意味でもある。タカラで、イグ・ノーベル賞を受賞したイヌ語翻訳機、バウリンガルの開発では、開発者もそのプロセスで感動することが多かったという。結果として、製品開発後、商品化されて、多くの消費者に感動を与えた。すなわち、商品開発の段階から、感動が自然と湧いてくるような、そのような環境づくりが大切であるともいえる。

② こうした心の姿勢は、メーカーと顧客との関係でも、その商品をサプライズ、感動、楽しい、、、と消費者が見てくれている、思ってくれているとイメージしながら、商品企画、開発、製造している、ということにもあてはまる。

③ そういう意味では、これまでの CRM といった、顧客と企業のつながりをベースに、企業イメージ、ブランドイメージを高めてもらいながら、心の通い合うコミュニケーションのようなものが大切ということでもある。

## ■【企画趣旨】

近年、20世紀までの価値観が大きく変わりはじめているように、感じられます。たとえば、ビジネスで成功し世界一の富豪といわれたビルゲイツ氏は、世界の子供達を救う慈善事業を行っています。

また、バングラデシュのユヌス氏は、ソーシャルビジネスとして、貧困層の自立を目的とした金融事業を展開、同氏とグラミン銀行がノーベル平和賞を受賞しています。

このようにビジネスのあり方、考え方そのものが、従来と大きく変わる中、感動、感動価値創造、感動脳といったキーワードが大切と感じられます。そこで、このような観点から、感動体験、失敗から成功した体験、大笑いした体験などについてお尋ねしました。

## 1. もっとも感動した体験

### (1). 旦那様が結婚する前のクリスマスにバラの花束を持って突然家に来た事

#### 愛

付き合って最初のクリスマス 色々な事情があり彼とは会えないと思ってあきらめて家族と夕食を食べていたら、彼からメールがきて、もう直ぐ着くからと。会う約束もしていなかったし会えないと思っていたから最初は意味が分からなかったけど、しばらくしたら着いたよとメールがきて、表に出たらバラの花束を抱えて会いに来てくれた。一番好きな人にクリスマスに会えないのはおかしいからねって言って笑顔でいてくれて、とても嬉しかった。

(たんたん、東京都、主婦、30代、女性)



## 2. 失敗から成功した体験

### (6). 三十年ぶりに手元に戻った愛用のカメラ

熱心なカメラ少年だった時、儉約の限りを尽くして憧れの T 社一眼レフカメラを購入し大切にしていた。だが二十歳を迎えた頃カメラへの興味が薄くなり、金欠病も重なって大先輩の Y 氏に譲渡してしまった。だがこのカメラのことは、失った恋人のような気持ちでずっと心に引っかかっていた。やがて三十年を経てカメラ熱が再発したとき、幸運にも Y 氏の所在が判明し、無事買い戻すことができた。当方はすでに転職、Y 氏も引退の身の上で、両者にとってその奇遇を懐かしがった。青春時代のコンディションのまま再び手元に戻った思い出のカメラは一生の宝物なのだ。

(ちくわ、愛知県、自由業、50代、男性)



### 3. 大笑いの体験

#### (32). インドのナマズ売り

母とインドへツアー旅行をしたときの事。

カンジス川を船で遊覧していたら小学生くらいの兄・妹がのる船が近寄ってきて、何かを買ってほしいという。見るとちいさなナマズが一匹。通訳さんによると、このなまずを買い取りすぐに川に逃がしてやると「功德」になるのだと。

母はすっかりその気になり買うことに。しかし両替したばかりの紙幣はどれも同じように、面倒くさくて適当な紙幣を渡すと、子供たちは逃げるように船をこぎ離れていく。母はかなりの高額紙幣を渡したらしい。家族が半年暮らせるくらいなの！子供たちは通訳さんが気づいて紙幣を取り上げられるのを恐れて猛ダッシュで逃げたのだった。

(くっさん、東京都、派遣社員、40代、女性)



## 第三章. 調査研究者の気づき、コラム

### (5). 天命に生きた大人物、笹目仙人、中村天風

私は学生時代に、友人とともに、東京都の御岳山にいる笹目仙人に会いに行きました。あるとき、笹目さんは、呂霊来神仙という仙人に出会い、次のように言われました。

「あなたはこれから、二つの人生を歩むことができる。一つは天の使命に従い生きること。しかし、そこには、苦しみ悲しみが満ち溢れている。もうひとつは、富と名声を手に入れるが短命に終わる」・・・ 笹目さんは、天の使命、天命に生きることを選んだのでした。

この笹目さんは、終戦時に、満州でソ連兵にとらわれ、水牢攻め（足元が水浸しになる）の独房に入れられること、1ヶ月間、何も与えられない中、窓からさしこむ太陽の光を喰う、という術によって、生きながらえました。そして、とうとう、ソ連兵も、あきらめ、開放したということでした。



その後、笹目さんは多くの留学生を日本に迎えるなど、日満親善に貢献しました。この話は、さんま・たけしの超偉人伝説という番組で取り上げられました。

笹目さんは94歳くらいまで生きました。そして、前述のように私が（学生時代）、御岳山にいる笹目仙人に会いに行くと、「ちょうど、人が欲しかったんだ（^^）。もし、何ヶ月かここにいられるなら、太陽を喰う秘伝を授けてあげよう。君、どうかね。。」といわれたのでした。（いまさら、水牢攻めに耐えられるような、秘術を教わっても・・・(笑)・・・私は、興味はありましたが、シャバ世界にひたっていたので、丁重に？お断りさせていただきました。……